

(お 知 ら せ)

令和 7 年 2 月 2 1 日
防 衛 省

横田飛行場への立入り時の質問事項について

令和 6 年 1 0 月 3 日に米側から通報を受けた、横田飛行場における P F O S 等を含む水の漏出について、同年 1 2 月 2 0 日、国（防衛省、外務省、環境省）、東京都及び周辺市町（福生市、立川市、昭島市、武蔵村山市、羽村市、瑞穂町）が横田飛行場への立入りを実施しました。

その際の米側への質問事項について、別紙のとおり回答がありましたのでお知らせいたします。

防衛省としては、引き続き、米側に対して恒久的な再発防止策等について確認しているところであり、米側から情報が得られましたら、速やかに関係自治体へ情報提供できるよう努めてまいります。

米側への質問事項と回答

問1 漏出したとされる「約 12,600 ガロン」という数字はどのように計算したのか。

(回答)

消火訓練エリアから漏出した水の量として米側が示した約 1 万 2,600 ガロン(約 4 万 8 千リットル)という数字は、昨年 8 月 30 日に横田飛行場の土木工事事務局が目視した訓練ピットから漏出した水の状況を踏まえ、見立てたものである。

問2 消火訓練エリアの訓練ピットの縁の高さと貯水池の縁の高さとに差はあるのか。

(回答)

貯水池の縁よりも訓練ピットの縁の高さの方が高い。

訓練ピットの水は、貯水池と接続する地下の配管を通じて重力により貯水池に排出されるように設計されている。しかし、昨年 8 月 30 日は、大量の雨の影響により訓練ピットに大量の水が短時間に流れ込んだため、同ピットから貯水池への排出が間に合わず、同ピットに滞留した水が同ピットを囲むアスファルト上に漏出したものである。

問3 今後の水の除去に係る方法と時期を含め、具体的な再発防止策について教えていただきたい。

(回答)

横田飛行場では、短期的な再発防止策として、2024 年 10 月末までに約 4 万ガロン(約 15 万 1 千リットル)の水を抜き取り、認可された施設において焼却処分した。

現在の水位を考慮すると、今後しばらく降雨が少ない季節であり、漏出のおそれは低いと考える。中長期的な対策として、横田飛行場では、貯水池の水を処理するための問題解決に取り組んでいる。

問4 排水経路、漏出場所である消火訓練エリアの貯水池及び訓練ピットのそれぞれの位置を図示した図面を共有いただきたい。

(回答)

横田飛行場の土木工事事務局は、流出経路の点検を行ったが、それ以上の詳細については、横田飛行場の内部オペレーションに関連しているため、提供することはできない。

問5 漏出発生時、消火訓練エリアのアスファルト上は冠水していたのか。冠水していた場合、その水位はどの程度だったか。また、漏出の数日後に現地の状況を確認されたと思うが、それは何日後か、またその際の訓練ピット内の水位はどの程度だったか。

(回答)

消火訓練エリアから漏出した水の量として米側が示した約 1 万 2,600 ガロン(約 4 万 8 千リットル)という数字は、昨年 8 月 30 日に横田飛行場の土木工事事務局が目視した訓練ピットから漏出した水の状況を踏まえ、見立てたものであり、これ以上の具体的な内容を示すことは差し控える。

なお、現時点で、訓練ピットの内部にいくらかの水が残存している。

問6 貯水池及び消火訓練エリアの訓練ピットの貯水容量について教えていただきたい。今回の説明の中で「10月末までに約4万ガロン（約15万1千L）の水を抜き取り焼却処分した」としているが、その上で、PFOS等を含む水はどの程度の量が残存しているのか。

（回答）

消火訓練エリアの貯水池の貯水容量は約29万ガロン（約110万リットル）であり、2024年10月末までに貯水池から約4万ガロン（15万1千リットル）の水が抜き取られている。

消火訓練エリアは、訓練ピットに溜まった水が接続する配管を通じて重力により貯水池に排出されるように設計されている。そのような設計のため、訓練ピットには「貯水容量」なるものはない。

問7 貯水池と消火訓練エリアの訓練ピットは相互に繋がっているのか。

（回答）

訓練ピットと貯水池とは、地下の配管により接続されており、訓練ピットに溜まった水が重力により貯水池に流入するようになっている。

問8 消火訓練エリアの訓練ピットは、浸透しない構造となっているか。

（回答）

訓練ピットにも貯水池にも、地下への水の浸入を防ぐために、水を通さないシートが敷設されている。

問9 これまで処理した4万ガロンの水の処分に係る産業廃棄物管理票の写しをいただきたい、もしくは具体的な処理方法として、汲み上げ方法、運搬方法、処分場の場所及び焼却処分方法について教えていただきたい。

（回答）

水はポンプで汲み上げられ、認可された業者により、認可された処分施設へ焼却処分のために運ばれた。契約の詳細については、開示できない。

問10 消火訓練エリアの範囲はどこからどこまでか。

（回答）

消火訓練エリアは、構造消火訓練機、車両救難訓練機、航空機救難訓練施設（訓練ピット及び大きな練習航空機）並びに関連する貯水池を含む幾つかの訓練施設からなる大きな「複合施設」である。

問11 消火訓練エリアにおけるドレインシステム（側溝）において、土砂撤去等のメンテナンスは定期的に行われているのか。

（回答）

雨水排水路については目視点検を実施し、土砂や障害物がないことを確認するとともに、大雨時には横田飛行場の隊員が車両にて雨水排水路を点検し、障害物がないことを確認している。

以 上